

一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会

発行人/会長 坂本 洋
編集人/政策委員会

〒020-0024 盛岡市菜園一丁目3番6号農林会館6階

☎(019)654-1434

Fax(019)654-1437

ホームページ <http://iwakids.ciao.jp/>

Eメール iwasiyou@hyper.ocn.ne.jp

I W A S H I Y O U R E N

発行/令和元年7月19日



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が
ともに手を取りあっ
て未来への飛躍を願
うもので、親と幼稚
園が子どもを育む姿
を岩手の「い」に象徴
している。

広報岩私幼連

VOL

111

(題字は工藤巖元岩手県知事)



『どっどど どどうど どどうど どどう』

無償化実施に伴う今後の施設運営の責務と課題



一般社団法人 岩手県私立幼稚園・
認定こども園連合会

会長 坂本 洋

新元号・令和元年を迎えた5月の今国会で念願の幼児教育・保育にかかる保護者負担保育利用料が国費財源で賄われる無償化の法案が成立し実施されることになりました。

これまで数度にわたって、動向とその課題につき情報提供をしてきましたが、いよいよ実施されることにより、具体的な無償化が、どのように施設運営に影響がありその効果をいかに有効活用するかが課題になろうと思私見を述べます。

1、無償化実施に至る経過の確認から

顧みますとこの方針は、2年前の「新しい経済政策パッケージ」（2017年12月閣議決定）第2章人づくり改革の一番目に盛り込まれた、幼児教育無償化です。その土台となったのは、安倍総理の諮問機関として、教育再生実行会議（2013年1月閣議決定）における提言が大きく働いていると思います。第11次提言までなされていますが、第5次提言で、新しい時代にふさわしい学制の構築で、これからの教育の在り方、特に義務教育や無償教育に係る論議の中で、幼児教育の無償化は世界の潮流と指摘されたことが決定的

になったと推測されます。

その論拠として、OECD（経済協力開発機構）における世界各国の教育費の調査、どれくらい国家予算化され、または良質な教育を維持する保護者が負担する費用の割合をGDP（国内総生産）比較で示されたものや、ジェームス・ヘッグマン（ノーベル経済学受賞者）のペリー就学前プロジェクト調査（40年間の追跡調査）による幼児期における良質な教育への投資効果等の論文が、先進各国の幼児教育への費用負担を国家プロジェクトとする政策が基になったと考えられます。従って、世界先進国における良質な幼児期の教育投資とその制度仕組みやその効果検証を、その後の幼児教育における有能な人材育成プログラム実施に活かすことが考えられます。

2、幼児教育の質の向上と人材確保の流れ

さて現状、幼児教育の質の向上を維持し、それを推進する専門性を備えた人材が十分に確保されているかが問われます。具体的には、在職する職員の更なるキャリアパス研修の場と時間の確保保障と、新任教諭の採用人材確保です。特に岩手県内では、新制度後は必要な人材需要を満たせない、応募しても人材枯渇でなり手不足という状態です。新卒者は卒業時には初志と違い、給与水準が低い、業務の専門性が大変である等の理由で、一般企業への就職や給与手当の良い都会志向が強くと地元に残らない実態があります。

従って、喫緊課題は他企業に比較し低い給与の改善が必須であり、本県の経営実態調査からも給与水準改善の必要が明らかになり、各法人施設が専門性資質向上に見合う職員給与改善のため、無償化後の実費経費徴収の必要性の理由説明をしっかりと、経費の上積徴収等の保護者理解を得る対応を努

力しなければなりません。なお国の政策的な幼児教育への職員処遇改善加算等が予算化されるようになり前進の兆しはありますが、加算の必要条件として法人独自の給与水準の引き上げが人事院人件費改善等を参考に実施することが求められております。

3、トップダウンリーダーシップからボトムアップ型への移行

従来の幼稚園運営は、職員の労働勤務時間8時間の中で、幼児教育事業・午前中4時間を中心に組み立てられ、専門スタッフ制の園長中心のトップダウンリーダーシップの運営が常態でした。しかし現状では社会的要請による午後の預かり保育や食育の給食指導等が加えられ、幼保一元化体制の推進で認定こども園も新制度として定着しております。業務内容も保育を要する事業が加わり、保育11時間が標準時間。早朝や預かりを含め13時間対応が通常業務です。従って、勤務する職員職種が多様化し専門化する中で、多様な勤務シフトが導入され職員一同が集う職員会議の開催が制限される状態。円滑な業務推進のためには組織として以前より運営のガバナンスやマネジメントの強化が問われるゆえんです。園長の役割や力量もさることながら、集団的、協働的な組織のためには、ボトムアップ型、分散型リーダーシップの体制構築と養成が必然です。

一法人一施設が多い幼児教育法人の在り方は、従来より私学事業の自主性と公共性の充実及びマネジメント力やガバナンスの強化が言われておりますが、無償化実施に伴ってその充実、現実化がより加速されるものと思われま

◎岩手県政策地域部学事振興課の紹介

～本県の私立幼稚園教育の
良好な環境づくりに向けて～



岩手県政策地域部学事振興課
総括課長 工藤 直樹

皆様におかれましては、日頃より本県の私立幼稚園教育の振興に御尽力いただき感謝申し上げます。

さて、県では、今年3月に策定した「いわて県民計画（2019～2028）」において、「私学教育の充実」を明確に位置づけ、各園の創意工夫を生かした特色ある教育活動への支援を通じて、幼児の健やかな成長のための良好な環境づくりを促進していくこととしております。

また、私立学校や高等教育機関との

一層の連携強化を図りながら、将来を担う人づくり・地域づくりを進めるため、今年4月から政策地域部に学事振興課を設置し、私立幼稚園に関する業務も含め、昨年度まで複数の部署で所管していた業務を集約して所管しておりますので、よろしくお願いいたします。

今年10月から実施される「幼児教育・保育の無償化」についても、その円滑な実施を図りながら、幼児期の学校教育や地域における多様な支援の量的拡充と質的向上に向けて引き続き取り組んで参ります。

令和元年度学事振興課事務分担表(私学振興担当)

※幼稚園関係のみ抜粋

事務分担	担当者
<ul style="list-style-type: none"> 私学関係団体からの請願・陳情に関する事。 私立学校審議会に関する事。 私立学校の指導に関する事。（いじめ防止対策推進法に係る事務を除く。） 県民からの投言に関する事。 学校事故報告に関する事。 	私学振興担当課長 中村 葉子
<ul style="list-style-type: none"> 私学振興担当事務の経括に関する事。 	主任 戸塚 教仁
<ul style="list-style-type: none"> 私立学校運営費補助金に関する事。（一般運営費） 私立学校関係予算及び決算に関する事。 助成対象法人の事務検査に関する事。 緊急スクールカウンセラーに関する事。 	主任 菊池 冨美
<ul style="list-style-type: none"> 災害状況の報告に関する事。 	主任 高橋 安和
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園設置法人及び私立幼稚園に関する事。 幼稚園の運営費補助金に関する事。（教育改革推進特別経費、幼児特色） 子ども・子育て支援新制度への移行に関する事。 学校教育法施行細則及び私立学校法施行細則に関する事。 私立学校法施行細則関係の届出に関する事。（幼稚園） 耐震化対策及び耐震化支援事業費補助金に関する事。 災害復旧費国庫補助・県補助に関する事。 私立学校施設整備費補助金（台帳・財産処分含む）に関する事。 学校の安全対策に関する事。（施設に関する事に限る。） 幼児教育の無償化に関する事。 	主任 非田 貴大
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の運営費補助金に関する事。（特別支援教育費） 学校の安全対策に関する事。（施設に関する事を除く。） 助成対象法人の事務検査に関する事。 	主任 竹内 万紀子
<ul style="list-style-type: none"> 私立学校被災児童生徒等就学支援事業に関する事。 学校法人及び私立学校に係る調査、統計及び報告に関する事。 	主任 高橋 希登

子どもたちが健やかに成長されるよう、安心・安全な園の環境づくりのため、引き続き皆様の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

◎保健福祉部子ども子育て支援課の紹介

～認定こども園を取り巻く動向について～



岩手県保健福祉部子ども子育て支援課
総括課長 門脇 吉彦

皆様におかれましては、日頃より、本県の児童福祉行政及び子ども・子育て支援施策の推進に御尽力いただき感謝申し上げます。

さて、当課では、子ども・子育て支援新制度全般の事務のほか、認定こども園の認可・認定等の事務を担当しております。

今年5月、子ども・子育て支援法が改正

され、10月から幼児教育・保育の無償化が実施されることとなりました。私立幼稚園・認定こども園の皆様におかれましては、制度が円滑に実施されるよう、御対応につきましてよろしくお願いいたします。

国は、「経済財政運営と改革の基本方針2019」の中で、幼児教育・保育の無償化の実施とともに、待機児童問題の解消のための保育の受け皿整備、幼児教育・保育の質の確保・向上を推進することとしております。

県では、今年策定した「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、安心して子ども

子ども子育て支援課事務分担表(子育て支援担当)

(認定こども園に係るもの)

事務分担	担当者
<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援担当の経括に関する事 子育て支援担当の関係条例・規則等に関する事 子ども・子育て支援新制度の経括に関する事 子ども・子育て支援事業支援計画に関する事 	主任 中村 諒一
<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園の認可、認定に関する事 幼保連携型認定こども園部会に関する事 施設の災害復旧に関する事 認定こども園の施設整備に関する事 病児保育施設の施設整備に関する事 施設型給付費・地域型保育給付費・委託費に関する事 子育てのための施設等利用給付交付金に関する事 	主任 後藤 圭吾
<ul style="list-style-type: none"> 保育士確保対策に関する事 保育士のキャリアアップ研修に関する事 児童福祉研修事業（新任保育士、潜在保育士研修）に関する事 認定こども園の指導監査に関する事 保育所入所待機児童・保育所アンケート調査に関する事 地域子ども・子育て支援事業に関する事 保育士及び保育教諭に関する事 	主事 遠藤 紀裕可 主事 土井尻 啓輔

を産み育てられる環境づくりに向け、保育所等の利用定員の拡大や、保育士等の人材確保に取り組んでまいりますので、引き続き、御理解、御協力をお願いいたします。

令和元年度全日本私立幼稚園連合会

東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会(福島大会)記念講演

6月21日福島市において上記の研修会が行われ、冒頭の記念講演には福島県立医科大学医学部疫学講座主任教授の大平哲也先生をお招きして「子育てに笑いを!〜こころとからだを元気にする笑いの効果〜」の演題のもと、まさに笑いの絶えない講演を拝聴することが出来ました。講演の中で、子育てや日常の問題を「笑い」の重要性と「笑い」でどの様に軽減していくかを医学的見地と具体的に例を挙げて分かりやすく説明していただきました。

講演の冒頭、私たちの日常生活の中で感じている「ストレス」について説明がなされ、その及ぼす影響が様々な場面に及んでいることを指摘されました。職場を始め家庭内や経済的問題も含めあらゆる場面に及び、様々な身体的反応からストレス関連疾患を発症させている原因になってそうです。ストレスから来る反応には、身体的反応と心理的反応があり身体的反応には、頭痛・腹痛・血圧上昇・疲労感等が見られ、心理的反応には、怒り・不安・緊張・不眠・悲しみ等が見られます。これらの身体的反応や心理的反応を放置することによって肥満・高血圧・糖尿病・高脂血症・うつ病等深刻な状態に繋がっていき、最悪脳卒中や脳梗塞、心臓病の発症にまで進行していく可能性を指摘されました。このような状況をどの様に予防していくのが大切で、職場でのストレス予防は第2次予防の「早期発見」よりも第1次予防の「ならないようにする」環境作りが大切であると述べられました。生活習慣も非常に大切で、特に野菜・魚を摂り、朝食をしっかり食べ、体を動かし、睡眠、タバコは吸わない、お酒は適量といったことに気をつけることが重要である。職場のストレス軽減のためには、ストレスを減らす努力をすると言うよりも、仕事にやりがいや誇りを持ち、熱心にかつ目標を持って達成感が感じられるような仕事の取り組み方をするによって、病気になりにくい職場環境を作ることが出来ると述べられました。特に「笑い」は大切で笑う人ほど長生きの

傾向があることを指摘された。

「笑い」とは、面白いと思って笑い声を出すことで、感情ではなくいろいろな筋肉を使う行動であると述べられた。笑うとい

う行動は、高等動物にしか出来ず、人間と猿の仲間でも高等なゴリラ、チンパンジー・オラウータンにしか見られない行動であり、他の動物は、笑っているように見えるだけで「ハハハハ」という声を発しないので「笑い」の定義には当てはまらないので笑っていることにならないそうです。日本人は、アメリカ人に比べても1日に笑う回数が少ないそうで、アメリカの研究ではよく笑う人と笑わない人の寿命の差は7歳程差があると報告されているそうです。

笑いは、ハ行で声を出す、一番大事なのは腹筋を使う運動効果がある「ハ」「ホ」だそうで、15分の笑いで消費カロリーも大きくなるようです。最近話題になっている認知症や糖尿病も笑わない人の方が発症しやすいことが分かってきたそうです。最近の研究でも「笑い」が、ストレスホルモンを減少させ生活習慣を改善させるということが分かってきました。若い人ほどよく笑う傾向にあり、年齢とともに笑いが減っていく傾向にあると言われ、それは脳の機能の衰えが原因であるのではないかと考えられているそうです。笑いと寿命は密接に関係しているので歳を重ねるごとに笑いの環境を充実させていく努力が必要なのかもしれません。

意識的に笑う方法として、「笑いヨガ」が紹介され、会場の皆さんと一緒に体験させていただきました。とても簡単で楽しい実習でありました。特に実習でやった「バンザイ」は、「バンザイ」を



やっているだけで脳は、楽しいことをしていると勘違いするそうで、落ち込んでいる時などは、バンザイをやるとうれいそうです。ストレスを笑い飛ばすことが大切で、「笑い」という行動そのものがストレスを減らすのだそうです。また、「笑い」はストレスを解消するだけではなく、脳をリセットさせる効果があり、仕事や授業の前に笑いを導入することによって、集中して仕事や授業に入っていくことが出来るようになるそうです。さらに、笑いは、人付き合いを改善していく効果があり、人付き合いの改善によって認知症になる確率が8分の1に軽減したという報告が出てきているそうです。

笑いを増やす方法として、笑いのツボが一緒の笑える人といることが大切であると述べられ、震災後の状況から見ても家族を失うなどから笑いが3分の2位に減ったと言われて、一緒にいて笑える家族の大切さが再認識され、人と会う頻度が多いほどおしゃべりが活発になり笑いが多くなるそうです。子育てで大切なのは、赤ちゃんが笑ってくれたら反応を示してあげることが重要で、何も反応を返さないと赤ちゃんは笑わないようになるので、赤ちゃんの笑いには必ず笑った行為への報酬を与えてあげることが必要だと述べられました。

最後に幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せか来ると考え、笑う環境を整えていって欲しいと述べられてこの講演を締めくくられました。

今後の活動の方向性について

総務委員長 高橋 繁雄

本年10月より幼児教育・保育の無償化が実施されます。その実施にあたり、施設等利用費や預かり保育料、給食費の受領方法等の運用に係る細部は基礎自治体の裁量に委ねられております。必要に応じて各園が市町村との協議の場を持ち、適切な方策を見出ししていくことが求められます。

各園におかれては、この度の制度改革の理解に努め、園が所在する市町村との連携を図り、無償化への対応を進めていくことが望まれます。

岩私幼連は、そのために必要な情報の提供をしていきたいと考えております。

幼児教育・保育の無償化によって多額の公費が投入されることから、私立幼稚園・認定こども園には更なる教育・保育の質の向上が求められてきます。

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構では、チャレンジビジョンと称し5年後までに達成すべく（最終的な目標を10年後に据える）7つのアクションプランを策定し実施することとしています。

岩私幼連としても、このアクションプラン遂行のための検討に着手し、早期に事業の展開が図られるよう取り組んでいきたいと考えています。

令和元年度政策委員会事業計画

政策委員長 今西 界雄

本年10月から幼児教育・保育が無償化されることとなり、様々な対応が求められ、しかも市町毎に対応が異なることも考えられるので、各地区や市町に対応に対してきめ細かな情報開示が必要となってくるのが考えられる。無償化の実施までの作業工程も必ずしも余裕があるものではないので、迅速な情報発信が求められる。特に給食費や預かり保育の取り扱いに関しては、勘違いなど様々な対応が考えられるので分かりやすい形での情報伝達に努めていきたい。無償化に伴い私学助成園も市町村との関わりが大切となってくるので、今までとは違う意識の醸成も必要となってくると考えられる。その点は「広報岩私幼連」「イワシヨウジャーナル」を通じて課題を明確にしていきたい。さらには、私立幼稚園関係予算や政策要望も併せて行ってき、また、施設型給付園への市町の公費助成の調査を引き続き行い、また無償化への対応状況を開示していくこととしたい。一方、ネット環境を利用した求人サイトのさらなる活用に向けて取り組みも継続して推進していきたい。

教育研究委員会抱負と事業計画

教育研究委員長 蜂谷 隆博

本年10月から幼児教育・保育が無償化されることとなり、私立幼稚園・認定こども園には、公的な支援に見合った質の高い幼児教育の提供や、専門性の向上がこれまで以上に求められることとなる。そこで、昨年度に引き続き研修の機会を多くもち、保育に携わる者一人一人の幼児教育・保育の専門性の向上を目指していきたい。また、研修会の実施においては、キャリアアップ研修の認定を受け、私立幼稚園・認定こども園の教職員の処遇改善に向けた研修会とする。キャリアアップ研修として6分野の中の「幼児教育」「乳児保育」については昨年度から引き続き重点項目とし、今年度は、新たに「障がい児保育」および「食育・アレルギー対策」を重点項目に加え実施していく。

また、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が行う公開保育を活用した幼児教育の質向上システムであるECEQ公開保育について県内の多くの園に理解してもらえるよう、今後も取り組んでいきたい。この岩手県内では、現在5名のECEQコーディネーターと今年度から新たに1名のECEQコーディネーターの資格取得に向けた取り組みを行っており、県内で多くの園のECEQ公開保育の開催を目指していきたい。

今年度の事業方針

経営研究委員長 佐々木 栄光

幼児教育を取り巻く社会環境は、激変の時代を迎えております。特に本年度は、国において子ども子育て支援新制度の施行後5年目見直しが行われており、公定価格の行方次第では今後の園経営に多大な影響を及ぼすことが予想されます。また、本年10月から実施される幼児教育・保育の無償化では、保育料や経常費に対する公的助成等、基本収入には影響はないものの、一部、給食費の取扱いや預かり保育の新たな基準に対するこれまでにない対応が求められることとなり、事務負担の増大が懸念されるどころです。その他にも継続課題として、人材の確保に係る処遇改善やキャリアアップ研修対応、キャリアパスに関する職階の構築に伴う就業規則や諸規定の整備等、園環境全体のガバナンス強化へ向けた様々な課題が挙げられます。

本委員会では、8月と1月の経営セミナーを通して、上述の諸課題に対する理解の深化と経営判断に資する情報提供に努めていきたいと考えております。なお、当該セミナーは、岩手県よりマネジメント分野のキャリアアップ研修の指定を受けておりますので、設置者、園長先生をはじめ、対象職員の方々のご参加もお待ちしております。

地区会だより

県北 「新制度5年目の県北地区」

久慈、二戸両市の移行状況は今年の4月時点で、久慈市は幼保20園のうち5園が、二戸市は8園のうち5園が認定こども園に移行しました。新制度も5年目に入り、県北地区の各施設は特に幼稚園はすべて移行しました。

二戸市の保育施設協議会では盛岡大学短期大学部の嶋野重行先生を講師に招聘し支援を要する園児への手助けについて指導をいただきました。

今秋から無償化がいよいよスタートします。各園では保護者との連携を図り新しい制度をうまく受け入れていくように準備を進めています。

二戸市のまつのまるこども園では5月に稲の田植えをしました、水を湛えた広い田んぼにおそろおそろ足を踏み入れるこどもの格好が可笑的、と指導してくださる農家のベテランさんは微笑むが園児にとっては初体験、とにかく泥んこ格闘して終わりました。秋の収穫時には新たなパフォーマンスがみられるか楽しみです。

(まつのまるこども園園長 國分一彦)



田植えに励む子ども達

盛岡 「子どもたちの今と未来の幸せをねがって」



子どもたち一人一人の今と未来の幸せを願って、盛岡地区会では様々な研修を行っています。

盛岡地区会の教員研修会は、「多様な子どもの受容とクラスの育ちを考える」「発達連続性を踏まえる保育」「子どもの心を聴く」「遊びの意味と育ちへのつながり」「協同的な遊びと学びの実践」「子どもと共に作り出す環境構成」「3歳未満児の生活と保育環境」の7つの班に分かれ、第1木曜日の午後を基本に研修を続けています。今年度は2年継続の後半の年で、研修のまとめの時期に入っています。昨年度の10月からキャリアアップ研修の認定も与えられ、講師の先生を招いて学ぶなど、それぞれの研修にも力が入っています。

盛岡地区PTA連合会は、2回の連絡協議会(研修会)を計画しています。第1回連絡協議会は7月1日(月)に開催されました。Lips Dance School代表の中條鈴先生を講師に、「踊ることから学ぶ協調と主張」について学びました。第2回も有意義な研修を計画します。

(仙北町幼稚園園長 根内 純)

中部 「花巻私立幼稚園協議会」

昭和43年3月に3園で創立の花巻私立幼稚園協議会(現在7園)は51年目となり、3つの研究班が園児の生活に寄り添っている。

4月12日開催の総会後に研修した食生活コンサルタント下田美子先生の「子どもの心と体をつくる大切なこと」の講演では、毎日の生活リズムで、母が中心となる家族と子の信頼関係が築かれ、食事のマナーで躰ができることが強調された。子育て期は、子どもの体調や予定に寄り添いながら過ごすことの必要性を中心に、子どもの自立心を育成する。食の例示は、四季を大切に「和食」(主食、汁もの、大・小のおかず、果物・乳製品)。

総会後各園は、保育の充実と研修会参加に配慮しつつ、10月から実施される幼児教育・保育の無償化について、自園の無償化対象項目と無償額の、保護者への分かりやすい説明の準備に取り組んでいる。

(幼保連携型認定こども園花巻みなみ幼稚園園長 照井義彦)



6月15日中部地区で開催された新任教諭研修会の様子

県南 「より良い保育を」



大きなダムを作ろう!

新年度が始まり3ヶ月が過ぎました。4月には、新しい環境や、初めての集団生活で、不安な思いから泣いて登園していた子ども、今では好きな遊びを見つけ、友達を誘い合い、笑い声が園に響き渡るようになりました。

県南地区会奥州支部では、2ヶ月に一度主任会が行われ、各園の園内研修の状況や各園で課題となっている話題について意見交換を行っています。

社会や家庭環境の変化によって子どもを取り巻く環境も変化している中で、子ども一人ひとりの発達段階を見極め、教師間で共通理解をし、その子に寄り添った援助や保育をすること、また、保護者と共に子どもを育てることが大切なのではないかと感じています。

私たち保育者は、日々の忙しさに追われることなく、自己研鑽を重ね、保育の充実に努めていきたいと思えます。

(認定こども園姉妹幼稚園 主幹保育教諭 佐藤順子)

沿岸 「共に学び合う教員研修会」

沿岸地区では宮古ブロック、大槌・釜石・遠野ブロックに分かれて2年連続で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育実践」というテーマで研究しています。今年の研究の2年目にあたり、5月には主任研修会を開催し、総合教育センター主任指導主事の吉田澄江先生より研究の進め方についてお話を伺いました。来年1月には2年間のまとめとして報告会を行う予定です。

また、釜石ブロック保育所等協議会、釜石保育士会、(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会共催で、6月15日鶴見大学短期大学部教授天野珠路先生をお招きし、『今、保育士、保育教諭に求められているもの』—「養護」を中心に保育の真髄を探る—と題してご講演いただきました。沿岸地区からも61名の先生方が参加し、大変有意義な時間を過ごしました。

(甲東こども園 指導保育教諭 菱沼久実)



天野珠路先生よりご講演いただきました

岩私幼連の年間行事

○政策委員会

事業名	期 日	開 催 地
第23回岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会	R 1.10.25 (金)	奥州市文化会館Zホール

○教育研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回新任教諭研修会	R 1. 6. 1 (土)	盛岡市総合福祉センター
第2回新任教諭研修会	R 1. 7. 6 (土)	花巻市文化会館
第3回新任教諭研修会	R 1. 6.15 (土)	花巻市交流会館
第4回新任教諭研修会	R 1. 6.29 (土)	一関市総合防災センター
第1回教員研修会	R 1. 7.27 (土)	盛岡市総合福祉センター
総合研修会・第2回教員研修会 副園長・教頭・主任教諭研修会	R 2. 1. 8 (水)～9 (木)	花巻市/ホテル千秋閣
第35回教員研修大会(中部地区大会)	R 2. 3.24 (水)	ホテルシティプラザ北上

○経営研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回経営セミナー	R 1. 8.23 (金)	ホテルメトロポリタン盛岡NW
総合研修会・第2回経営セミナー	R 2. 1. 8 (水)～9 (木)	花巻市/ホテル千秋閣

○全日私幼連東北地区会

事業名	期 日	開 催 地
第27回東北地区設置者・園長研修会	R 1. 6.21 (金)	福島県福島市
第34回東北地区教員研修会(青森大会)	R 1.10.18 (金)～19 (土)	青森県青森市

○(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

事業名	期 日	開 催 地
第10回幼児教育実践学会	R 1. 8.19 (明)～20 (火)	静岡県静岡市

○岩手県教育委員会

事業名	期 日	開 催 地
岩手県幼稚園教育研究協議会	R 1. 8. 8 (水)	岩手県立生涯学習推進センター
岩手県教育研究発表会	R 2. 2.13(木)～14 (金)	岩手県立生涯学習推進センターほか



新任教諭研修会報告

教育研究委員長 蜂谷 隆博

第1回新任教諭研修会

6月1日(土)に盛岡市総合福祉センターを会場に今年度第1回目の新任教諭研修会が開催されました。当日は、県内各地からおおよそ90名の先生方が参加しました。

研修Ⅰでは、本連合会会長の坂本洋先生に、「職場組織人として求められる人材と心構え」をテーマに新任の先生方に向け、講演の講師を務めていただきました。幼児教育現場の情勢や、新任の職員に求められる資質など基本的な内容や、幼児教育・保育の無償化の背景にあるものなど具体的にわかりやすくお話をいただきました。また、研修Ⅱでは、本連合会副会長の坂水かよ先生から、「幼児教育の重要性について」～保育現場の事例から考えるをテーマにご講演いただきました。園生活の具体的な事例の紹介や、ご自身の様々な経験をお話していただき、参加者は改めて幼児教育に携わることの責任の重さや重要性を感じる事ができた講演でした。

第2回新任教諭研修会

6月8日(土)に釜石市で開催する予定でしたが、諸事情により7月6日(土)に花巻市文化会館においておおよそ40名の先生方が参加して第2回新任教諭研修会を開催しました。

研修Ⅰでは、「乳児保育の意義」をテーマに幼保連携型認定こども園盛岡幼稚園主幹保育教諭の吉田房子先生からご講演いただき、乳幼児の発達に応じた養護や非認知能力を身に着ける過程、乳児保育の重要性についてお話をいただきました。研修Ⅱでは「障がい児保育の理解」をテーマに岩手県立釜石祥雲支援学校教諭の赤坂樹里先生から、保育の中での気づき、その子に合った支援、保護者との連携などについてわかりやすくご講演いただきました。

第4回新任教諭研修会

6月29日(土)に一関市総合防災センターを会場におおよそ30名の参加者で第4回新任教諭研修会が開催されました。研修Ⅰでは、修紅短期大学助教の中尾彩子先生から「子どもの発達～社会性の育ち～」をテーマに分かりやすく丁寧に教えていただきました。研修Ⅱでは、ふじなでしこども園指導保育教諭の鎌田恵子先生に講師を務めていただき、「乳児への適切ななかかわり」をテーマにご自身が務める園のスナップで実践の紹介や、資料を使った説明などしていただきました。

ご講義をいただいた先生方には、日々のお忙しい中ご準備・ご対応に感謝いたします

新任研修会の記録

教育研究委員 照井 悠公

去る6月15日(土)の午前中に、第3回新任教諭研修会が花巻空港旧ターミナルビルの花巻市交流会館を会場に開催されました。

乳児保育分野と食育・アレルギー対応分野の保育士等キャリアアップ研修に指定された本研修会には、県内各地の幼稚園やこども園などから新任の先生はもちろんのこと中堅からベテランの先生に至るまで70名近くもの先生方に参加していただきました。

乳児保育分野の研修では元花巻市教育委員会こども課課長、元ゆもと保育園園長である小田中清子先生を講師に迎え、乳児保育の基礎となることや子どもとのかかわり方で大切にすべきことなど、子どもの命を預かる施設の職員や保育者としての心構えなどの大切なことを教えていただきました。

また、重大事故を防ぎつつも子どもが安全かつ楽しく遊べるような環境構成の考え方などについても、先生自身の経験や職場での事例などを交えながらお話をしていただきました。

食育・アレルギー対応の研修では、花巻市教育委員会こども課の管理栄養士である千田梅春先生に乳幼児施設における給食の献立設定の理由や管理についての根拠などを説明していただき、普段園で提供されている子ども達の給食についての背景や対応の理由について知ることが出来ました。

講義の後半では、給食で実際に起こってしまったアレルギー等の重大事故の事例をもとに実際にそのような現場に遭遇してしまったらどのように対処をすべきなのかを各個人で考え、発表を行いました。その中の対応手段のひとつとしてのエピペンについては、練習用の本体を参加者ひとりひとりが実際に使用しながら「根本的な処置方法ではなく、『救急車が到着するまでと医療機関へ搬送するまでの一時的な処置方法』である」というお話を聞き、参加者一同があってはならない不測の事態への緊張感を一層強めている様子でした。

新任教諭研修会は県内各地で計4回の開催がありましたが、本研修が参加した先生方にとって多くの糧になるものであったと思っています。

●編集後記

10月から実施される無償化という大きな課題を持って始まった2019年度です。

各園ともどのような形でその事を行うのが最善なのか、そして遺漏なく行うには…と準備を進めている事と思います。

無償化が進められる中で、私達が心していきたい事は、保育の質のさらなる向上と、子どもの最善の利益を守る事、そして働く職員も喜びを持ち働き続けることのできる職場にしていく事な

のでは、と考えます。

昨年度、新教育・保育要領が施行され、私達は将来日本を担って生きていく子ども達の育ってほしい姿を描きながら、いろいろと痛ましい事件、事故のある日常ですが、そのような事が起こらないよう努力し、明るい未来を見据え幼児教育を行ってまいりましょう。

(政策委員 菅原章子)